

## D-5 現代における学校外教育のあり方と造形教育の意義について(第一報)

日本福祉大社会福祉 小木美代子

**目的** 近年の物質的に豊かな社会の中にあつて、子どもの手がだんだん機能しないことが問題になってきている。いうまでもなく、造形活動とは、手の機能によってモノに働きかけものをつくり出すという、人間の発達過程において欠かすことのできない活動の一つであるといえるが、少なくとも昭和30年代の後半までは、科学・技術の著しく進展するなかで、たいして問題にはなかなかつた。機械化され物質的に豊かであれば、手の労働(造形活動)は不必要なのか—の問題設定に基づいて論究を行なう。

**方法** ここでは、主として現代における学校外教育のあり方を考察する中で、手の労働(造形活動)が担なう役割と造形教育の意義について、理論的に追求する。

**結果** 人間の全面発達をめざす上で、公教育の中に造形教育が組み込まれる意義は大きいといえるが、それにも増して、学校外教育の場における異年齢集団による地域での自然やモノに働きかけていくという造形活動、従つて、それを教育的に体系化していくことの意義は大きいといえる。以後は、この視点でもつて、学校外教育の場における造形教育の理論的追究と実証的研究を展開することとする。